

# 神の備えた再婚相手

渡辺不二夫牧師／厚子夫妻

新潟県六日町の渡辺不二夫牧師は、最初の奥様房枝さんを病気でなくし、2人の娘さんを男手一つで育てていましたが、8年前に神さまが備えられた新しい奥様厚子さんと出会って新しい家庭を築いています。

「奥様をなくされた経緯を教えてください。」

不二夫 頭痛がすると言って入院し、3日目ぐらいの朝に、くも膜下出血で天に召されました。13年前で、私は40歳、房枝が42歳でした。

最初は「そんなに大変なことではないので、来週には退院」なんて話をしています。前日も「じゃ、また明日」と病院の入り口まで点滴を付けたまま本人が見送りに来ていました。

ところが、翌日の朝5時くらいに病院から電話が来て、「急変したので、急いで来てください」ということでした。

「お子様たちは、おいくつでしたか。」  
不二夫 上の智子ともちこが小学4年生、下の頼子よりこが5歳です。

## ●男手一つで

「その後の家庭生活や教会のお仕事はい

かがでしたか。」

不二夫 再婚するまで6年ほどでしたが私の母は家内の一年前になくなっており、父は老いていましたので、食事や洗濯春夏秋冬の衣替えまで全部一人でやっていました。

「家事には困りませんでしたか。」

不二夫 それは全然なかったです。子どもの中学校の個人面談で、担任が「お宅はお母さんじゃなくて、いつもお父さん

なんです」と言っていて、「いや、妻は亡くなって、おりません」と答えました。先生は「それは失礼なことを言ってしまった」と恐縮されましたが、私に言わせれば、母親

がいけないことをまったく感じさせなかったということなので、かえってすごくほめられたと感じました。

## ●厚子さんとは

「今の奥様の厚子さんは、元エホバの証人の信者で、脱会してから渡辺先生が牧師である六日町教会においでになったということですね。」

厚子 実家は民宿でして、私は二人姉妹の長女です。家を継がなければとも思いましたが、英語が好きで英語の教師にな

りたくてアメリカに留学しました。そこで教会生活にふれて、「帰国したら聖書は学びたいな」と思っていました。

帰国後に教会に少し行きましたが、その頃家に來始めたエホバの証人の方が、キャリアウーマンだったのに、すべてを捨ててエホバの証人になって湯沢の地に來たと聞いて、その熱心さにひかれました。

「教会とエホバの証人の2つを比べてみたんですか。」

厚子 そうですね。そして質問していくうちに、教会の先生はそれほど熱心ではないけれど、エホバの証人のほうは、私の家にまで来てくれて熱心に教えてくれる。その頃、輸血拒否事件などがあって、「狂信的な教団なんだ」と疑ってはいたものの「すべてを捨てて」というのが、当時の私には魅力的に思えました。

「自分が組織に入って引く張っていかば、世の終わりのハルマゲドンでエホバ神が作ってくれる地上の楽園で暮らすことができる、家族もみな幸せになるんじゃないか」と、世間知らずな私はマインドコントロールされて入信しました。

「ご両親の反応はどうでしたか。厚子さんの態度、行動に戸惑われていませんか。」

したか。」

厚子 はい。お葬式に出ない、年賀状も出さない、親戚とも付き合わない、今までの友だちと付き合い合わない、仕事も次々に辞める……。

「これだけが絶対に正しい」と信じ込んだ私を見て、両親が「今までとは違つ、おかしい」と思い、ワイリアム・ウッド先生(エホバの組織では「反エホバの親玉」と言われています)にたどり着き、ウッド先生のカウンセリングを受けさせられました。2週間でマインドコントロールが解けました。

「エホバの証人の期間はどのくらいでしたか。」

厚子 求道時代も含めて7年でした。それが2週間で解けたんですか。

厚子 そうですね。情報さえ与えられれば、みな解けますよね。でも、「それは悪魔サタンからの教えだ」ということでシャットアウトしてしまいます。「組織のフィルターを通ったものが真実であつて、親が言ったこと、牧師が言ったことは、悪魔サタンのフィルターを通ったものなので、真実ではない」と。

「ウッド先生の言われた何が、鍵になったのでしょうか。」

厚子 ヨハネの福音書1章1節の「ことばは神であった」という聖句は、英語で大文字のGodですが、エホバの証人の英語の聖書では、a god と小文字を使っています。(後半略)